

きんけいざん

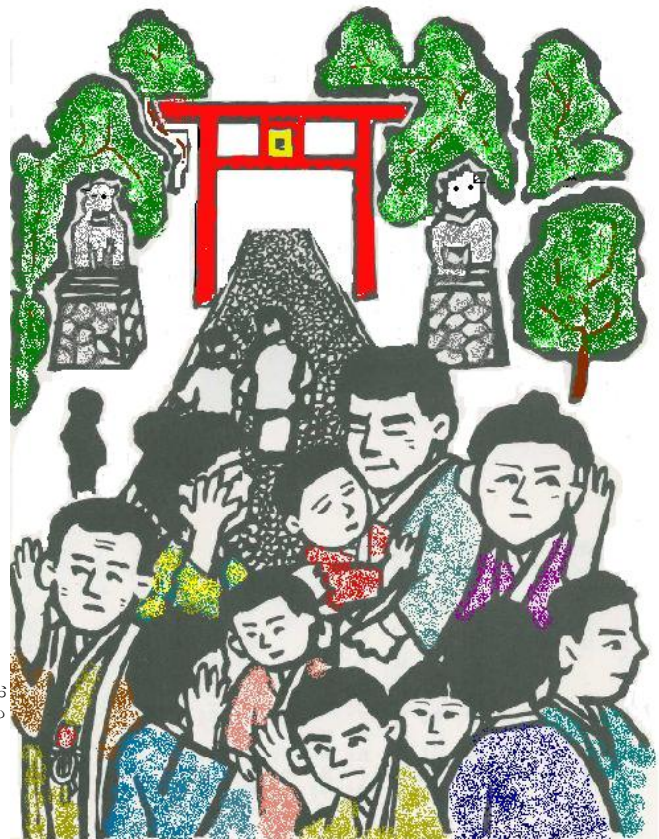
金鶏山

(森岡)

いま、森岡保育園の庭の西に、楠とくろがね
もちの大木がありますが、ここは、もと八幡社
境内の一角で、金鶏山と呼ばれる小さな丘のあ
ったところです。

むかしから、この丘に金の鶏が埋まってい
て毎年元旦の朝早くに鳴いたと言いつた
いました。金の鶏の鳴き声を聞いた年には、
必ず良いことがあるとも言われていました。

「ことしや、元旦に金鶏山で鶏の鳴くのを聞



いたもんで、きつとええことがあると思うとつ
たら、息子が嫁をもらったがな。」

「そーいやあ、うちの初孫が生まれた年も、金の
鶏の鳴き声を聞いた年だったなん。」

「わしも、来年こそ、聞きたいもんだ。」

そして、いよいよ大みそかの晩、除夜の鐘が鳴るころになると、村人たちは、みんな金の鶏の鳴き声を聞こうとして、八幡社に出かけたものです。

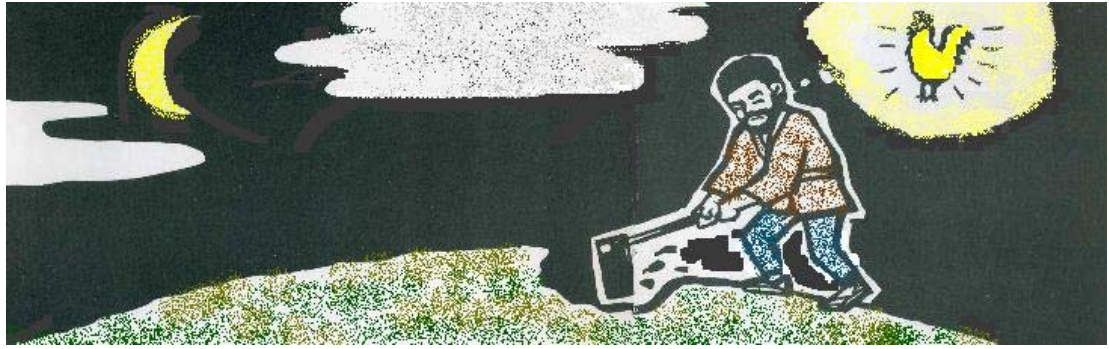
「もうおそいで寝んかや。」

「きようは、寝んよ。だって、金の鶏が鳴くのを聞くんのだ。」

子供たちまでも、金の鶏の鳴き声を聞こうとがんばりましたが、なかなか金の鶏は、鳴き声を聞かしてくれなかったようです。金の鶏が鳴く前に、どの子も、眠たくて、眠たくて、

ついに眠ってしまったのが常だったからです。

大人だって、実際に鳴き声を聞いた人は、あまりいなかったようです。金の鶏の鳴き声を聞いて、何かいいことにありつこうなんて、欲の心を持った人には、聞こえなかったかも知れません。しかし、この鳴き声も、ある年、金の鶏を掘り出して金もうけをしようと考えた男が、金鶏山を掘ろうとしてから、もう鳴かなくなってしまったということです。その男は、間もなく病気になって死んでしまいました。それから、この土地を掘ろうとする者には、必ずた



りがあると言われてきま
した。

ところが、大正二年、

八幡社境内を森岡尋常
小学校の敷地として利用

することになり、八幡社は、
今の村木神社に合祀され、

さらに、昭和五年、校地を
拡張するために、この丘

を在郷軍人会の人たちが
協力して取り払ってし

まいりました。その時、中に石室があり、須恵器と
いう古い焼きものが出て来ました。

金の鶏が埋まっていると言われた金鶏山は、
実は、この地方をおさめた豪族の墓、つまり古墳
だったのです。



▲ 金鶏山古墳から出土した
須恵器